

かわさき 図書館だより

Vol. 63



川崎市立図書館



かわさき電子図書館

最新情報は川崎市立図書館ホームページにて: <https://www.library.city.kawasaki.jp/index.html>

目次

- 1 報告：町田 樹 氏 読書普及講演会
 - 2 図書館アプリ・「予約かご」「お気に入り」ってなに？
 - 3 追悼山田太一さん・多摩区講演会
 - 4 読書のまち・かわさき読書活動優秀団体・フロンターレ選手と本を楽しもう！・各館情報
- 付録：地域資料新着図書案内 2024年2月号

報告：町田 樹 氏 読書普及講演会 令和6年1月28日(日)高津市民館大ホール

「本と生きる、本を書く」



今年度は國學院大學助教で元フィギュアスケート選手の町田樹氏にお越しいただき、3つのテーマで講演いただきました。

「本と私」

本を好きな理由、好きなジャンル・作家、本の選び方、影響を受けた本等を解説され、自身を「登場人物のキャラクターのつぼ」と分析。印象的なエピソードは、小学生の頃、入浴中のお母様に向けて毎晩行っていた「お風呂前正座音読」。想像力を働かせながら登場人物になりきって音読する町田少年の姿が目には浮かぶようで、静かながらもユーモアたっぷりな語り口に、会場は笑いに包まれました。

「私のフィギュアスケート作品と本」

文学とフィギュアスケートとの深い関係、「アダプテーション＝翻案」について触れられ、自身が初めて振付をされた『白夜行』の演技を上映。原作とは異なり、主人公の善悪に揺れ動く心情を直接的に描写、激しい感情をスピードのあるスケートという「ジャンルの強み」で表現するという演目。町田氏の演技を目で追いながらも同時に主人公の感情を想像する稀有な時間となり、文学を翻案する創作活動の無限な可能性を教えてくださいました。

「本を書く私」

現在の執筆活動と出版の重要性について述べられました。論理破綻せず長文を執筆する作業は「険しい山を登るかのよう」で、論文採択まで繰り返し「査読」が行われ練り直すという過程を経て、ようやく採用・掲載されると説明。本は多くの専門家に厳しくチェックされ「信頼性が高く」「リーズナブル」「公共性の高い」極めてユニバーサルなメディアであると主張。ひいては読書離れや出版不況は、今後の世の中の言論活動や芸術活動にも影響を及ぼす重大な問題であると提起され、講演は終了しました。

その後の質疑応答では質問が途切れることが無く、来場者と町田氏との温かいやり取りで、会場内の熱気は冷めることはありませんでした。

講演会を終えて

講演後のアンケートは「本の存在意義を思い出す」「全身を耳にして聴くほど非常に引き込まれる」「まだまだ引き出しがありそうな町田さんの講演をまた聞いてみたい」「こんなに語彙が豊富で豊かな情緒が形成されるのならもっと本を読まなければ」等、大好評でした。

昨夏、本と共に生きてこられた町田氏に講演の依頼をさし上げた際、「本離れに意義のある企画」と、即、快諾いただいたことに感謝すると同時に、図書館職員として改めて身が引き締まる思いをしました。

川崎市立図書館では、引き続き幅広い方々に図書館と本を活用していただけるよう講演会を開催してまいりますので、今後ともご期待ください。

講演で紹介された本



『ソメコとオニ』

斎藤隆介/作 滝平二郎/絵 岩崎書店/発行

恐ろしいオニにさらわれたソメコ。ところがソメコは怖がるどころか「かくれんぼをしよう」「おにごっこをしよう」とねだってオニを翻弄します。たまりかねたオニは…。

国語の教科書にも採用されている作品で、「何度も朗読しているうちに、『物語の中に入り込み、登場人物の気持ちを追体験する』という読書の楽しさに気付くきっかけとなった作品の一つ」と語られていました。

『白夜行』 東野圭吾/著 集英社文庫/発行

ある未解決殺人事件の被害者の息子と容疑者の娘。全く別々の道を歩いている二人の周囲で次々に起こる犯罪は果たして過去の事件と関連があるのか。

19年間事件を追いつける刑事をはじめ、周囲の人々の視線を通して主人公二人の言動が語られていて、作品中には本人たちの心理描写が無いことから、この主人公「桐原亮司」の心情を「一人称で」表現することをテーマにして自身の作品を作られた、とのことでした。



便利! 手軽! 図書館アプリ

図書館カードとして使える
バーコードを表示!
カード忘れの心配がなくなります

図書館ホームページにも
すぐにアクセス!
蔵書検索・予約が
アプリ画面から行えます

ぜひご利用ください!
アプリのダウンロードは
こちらのQRコードから



NEW

プッシュ通知で
お知らせを
もれなくキャッチ!

予約のご用意の有無や
カードの有効期限が
すぐにわかります

貸出中の資料のデータを
読書記録として自動で
保存・編集できます

「予約かご」

資料をまとめて予約できるようにしたシステムが「予約かご」です。1冊だけの予約でも、まずは「予約かご」に資料を入れてください。

「予約かご」に入れただけでは予約は完了していませんので、「予約かご」ページの一番下にある「チェックした資料をすべて予約登録する」ボタンを必ずクリックし、予約完了画面が表示されるのをご確認ください。

「予約かご」に入れた資料が消えてしまった!

「予約かご」に入れたままの資料は、ログアウトすると消えてしまいます。

また、30分放置すると自動的にログアウトしますので、「予約かご」の資料は消えてしまいます。

保存しておきたい資料は、「お気に入り」登録をお願いします。

2

「予約かご」・「お気に入り」ってなに?

みなさんのご質問から



「お気に入り」

「お気に入り」は登録件数の上限は無く、ご自身が削除しない限り登録した資料はそのまま保存されます。

いますぐ予約しないけれどメモしておきたい資料は、「お気に入り」ボタンで保存しておくと、後日「お気に入り」一覧から予約かごに入れることもできます。



アプリのこと、
ホームページのこと、
わからないことがあれば、
お近くの図書館へ
お気軽に
お問い合わせください

